



検索

概要	情報公開	研究推進
お知らせ		

トップ > [国立がん研究センターからのお知らせ](#) > [お知らせ](#) > 新生国立がん研究センターの新たな取り組み

新生国立がん研究センターの新たな取り組み

All Activities for Cancer Patients.「すべてはがん患者さんために！」

国立がん研究センターは患者さんおよび国民の皆さまとともに、全職員一丸となって、さまざまな取り組みを行っています。

1. [がん専門相談員によるがん相談支援\(がん相談支援センター\)](#)
2. [がん対話外来\(仮称\)\(新しい形のセカンドオピニオン外来\)の開設\(7/1から予約を開始します\)](#)
3. [治験情報の発信](#)
4. [国立がん研究センターと国内の数施設でしか行えない最新医療についてのご紹介](#)
5. [国立がん研究センターの治療成績の公開\(特定機能病院では初めての公開\)](#)

1. がん専門相談員によるがん相談支援(がん相談支援センター)

がん専門相談員は、がんの患者さんの様々な悩みに耳を傾け、患者さんともに考えます。

時に、当院で治療を行っている患者さんが医師とのコミュニケーションが不足していると判断した場合には、医師や看護師に対して、患者さんの声にもっと耳を傾けるようアドバイスさせていただきます。経済的な問題や介護の問題など、医師や看護師には話しにくいことがありましたら、遠慮せずにご相談ください。

他院でがんと診断された患者さんや、様々な治療を行ってきた患者さんに対しては、主治医の話をよく理解しているか、主治医との関係がうまくいっているかを含めてよく聞き出します。中には主治医の説明が十分に伝わらず、患者さんが不安になっていることや、病状について説明を受けて理解しているものの、それでも国立がん研究センターの医師の意見を聞きたい・診察を受けたいという患者さんもいます。

がん専門相談員は、患者さんの相談の内容から、主治医(ファーストオピニオン)ともっと話をしてもらいべきか、初診患者として当院の専門外来で診察を受けるべきか、対話外来(セカンドオピニオン)を受診していただくべきかをよく検討して今後の方向性を一緒に考えます。

あなたの病状を最も理解し、あなたのことを心配してくれるのは主治医です。今の主治医のもとにもどって自分の病状について良く説明してもらい理解することが、がんの治療には最も重要なことだと考えています。伺ったお話を踏まえて、必要に応じて当院の専門外来の初診の予約や、治療方針について悩んでいる場合には当院の対話外来の受診をすすめます。

- 「がんと診断されたけど、どうすればいいのかわからない」
- 「がん研究センターで診てもらいたい」
- 「ほかで治療法がないといわれた」
- 「最先端の治療がうけたい」
- 「治療費がかかってしょうがない、支援の仕組みを知りたい」
- 「がん検診をうけたい」

など、がんについて知りたい、どこで相談していいかわからない、といった疑問や悩みをお持ちの方は、専門

的な知識と経験をもったがん専門相談員による相談支援を受けることができます。当センターにかかっていない方でも、誰でも相談できます。ご家族が相談することもできます。

がん専門相談員が疑問や悩みを解決するためのヒント、相談できる場所をご案内いたします。がん患者さんのために当支援センターが少しでも力になれるよう、努力してまいります。

[▲このページの先頭へ](#)

2. がん対話外来(仮称)(新しい形のセカンドオピニオン外来)の開設 (7/1から予約を開始します)

あなたのがんの状態について最もよく知っているのはあなたの主治医ですが、もしも治療についての悩みや疑問がありましたら、各領域のがんの専門家が、看護師と一緒にこれまでの検査や診断、治療の経過について耳を傾け、今後のがん治療について相談させていただきます。医師には質問できないことなども、看護師に打ち明けてください。従来の専門医師のみによるセカンドオピニオン外来ではなく、医師・看護師が、患者さんご家族とともに対話しながら、あなたのがんの悩みについて答えていきます。

他の病院で病理診断がなかなかつかない患者さんは、まず病理科の対話外来を予約してください。スライドグラスなどの標本をお預かりし、病理診断がついた時点で、病理医と専門科の医師が相談したうえで、専門科の医師と看護師が今後の治療について回答させていただきます。

(対話外来の受診には、事前予約が必要です。7/1から予約を開始します。)

対象となる方

患者さんご本人、あるいはご本人による「相談同意書」があればご家族だけでも受診していただくことができます。

セカンドオピニオンに必要なもの

診療情報提供書と画像検査結果(CD・DVD・レントゲンフィルム)
病理診断書があると治療方針などについて判断しやすくなります。

[▲このページの先頭へ](#)

3. 治験情報

- 中央病院で実施している治験の情報
- 東病院で実施している治験の情報

[▲このページの先頭へ](#)

4. 国立がん研究センターと国内の数施設でしか行えない最新医療について

1) 国立がん研究センターでのみ受けられる治療(治験をのぞく、承認前の臨床試験を含む)

専門診療科	治療内容
眼腫瘍科	(1)網膜芽細胞腫・脈絡膜悪性黒色腫に対する小線源治療 (2)(治療ではありませんが)先進医療として、網膜芽細胞腫の遺伝子診断(保因者診断)
乳腺外科	(1)化学療法後乳癌に対するセンチネルリンパ節生検

呼吸器内視鏡科	(1)全身麻酔による経気管支鏡的腔内照射療法
消化管内視鏡科	(1)合併症症例ならびに内視鏡治療困難例に対する内視鏡室における麻酔科管理下における内視鏡治療
泌尿器腫瘍科	(1)サルコーマグループによる後腹膜腫瘍の集学的治療
造血幹細胞移植科	(1)同種移植後のWT1ワクチン療法 (2)T細胞除去移植後のHSV-TK遺伝子導入ドナーリンパ球輸注
小児腫瘍科	(1)小児・若年成人発症の肉腫(サルコーマ)に対する集学的治療

2) 国立がん研究センターと一部の施設でしか受けられない治療(全国の10以下ぐらいの施設のみ)

専門診療科	治療内容
脳脊髄腫瘍科	(1)IMRTによる放射線治療 (2)高齢者の覚醒下手術 (3)外来放射線化学療法の積極推奨による悪性脳腫瘍患者のADL維持療法
眼腫瘍科	(1)網膜芽細胞腫に対する選択的眼動脈注入 (2)網膜芽細胞腫に対する硝子体注入 (3)眼部腫瘍に対する放射線治療
頭頸部科	(1)喉頭機能温存術
乳腺外科 乳腺・腫瘍 内科	(1)GOG213試験(二次的腫瘍減量手術の有効性、卵巣癌に対するベバシズマブ療法) (米国NCI傘下の多施設共同臨床試験グループGOGとの共同試験Phase III) 高度医療評価制度 (2)早期乳がんに対するラジオ波熱凝固療法(非切除療法) 高度医療評価制度 (3)ICG蛍光法併用センチネルリンパ節生検法 (4)OSNA法を用いた高精度センチネルリンパ節迅速転移診断 (5)HER2陽性再発乳癌に対するハーセプチン/ラバチニブ併用第II相試験 (6)HER2陽性再発乳癌に対するハーセプチン/ラバチニブ/ビノレルビン併用第I相試験
呼吸器外科	(1)肺悪性腫瘍(原発性肺癌および転移性肺腫瘍)に対するラジオ波熱凝固療法(RFA)
呼吸器内視鏡科	(1)CTガイド下気管支鏡検査
食道外科	(1)根治的放射線療法後の遺残・再発に対するサルベージ食道切除
胃外科	(1)胃上部早期胃がんに対する自律神経温存噴門側胃切除(空腸間置)
大腸外科	(1)局所再発直腸がんに対する手術療法
消化管内科	(1)食道癌のS-1+CDDP+RT (JCOG0604) 医師主導治療
消化管内視鏡科	(1)大腸早期癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD)(先進医療) (2)治療困難症例(遺残再発症例など)の早期胃癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) (3)治療困難な食道癌に対する内視鏡的粘膜下層剥離術(ESD) (4)咽頭表在癌に対する頭頸科との協力による全身麻酔下内視鏡的粘膜切除術(EMR/ESD)
肝胆膵外科	(1)肝門部胆管がんや肝尾状葉腫瘍など高難度肝切除を伴う手術 (2)肝膵同時切除術

泌尿器腫瘍科	(1)局所進行前立腺癌に対する広汎前立腺全摘(当センターで開発) (2)前立腺全摘後などにおこる重度尿失禁に対する人工括約筋挿入術
婦人腫瘍科	(1)殿溝皮弁(ロータスペタルフラップ)による外陰形成術を用いた外陰がん根治手術。 (2)膣がんに対する根治手術および根治的放射線治療 (3)子宮頸がん局所再発に対する根治的骨盤内臓器全摘術 (4)子宮がん局所再発に対する高線量率組織内照射等を用いた根治的放射線治療
皮膚腫瘍科	(1)皮膚悪性腫瘍に対するセンチネルリンパ節生検 (2)悪性黒色腫に対するセンチネルリンパ節生検の実施と赤外観察カメラシステムを用いたリンパ節同定に関する臨床研究
造血幹細胞移植科	(1)年間の非血縁者間移植数は全国で2位 (2)高齢者に対するミニ移植は当院で開発され、累積施行数は全国一 (3)HLA-抗原不一致非血縁骨髄ドナーからのミニ移植
緩和医療科	(1)くも膜下モルヒネ投与による鎮痛
放射線診断科	(1)難治性腹水に対する経頸静脈経肝的腹腔-静脈シャント造設術 (2)悪性肺腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法(高度医療評価制度) (3)有痛性悪性骨盤内腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法(臨床試験) (4)上部消化管通過障害に対する経皮経食道胃管挿入術(PTEG) (5)切除不能悪性大腸狭窄に対するステント治療(臨床試験) (6)有痛性転移性骨腫瘍に対する経皮的ラジオ波凝固療法(現在高度医療評価制度、先進医療に移行予定) (7)悪性腫瘍による大静脈症候群に対するステント治療(臨床試験) (8)有痛性悪性椎体腫瘍に対する経皮的椎体形成術(高度医療評価制度) (9)ビーズによる血管塞栓術 (10)腎腫瘍に対する経皮的凍結治療(* 現在不可。先進医療承認後に開始予定) (11)気管狭窄に対するステント治療
放射線治療科	(1)子宮がん骨盤内再発に対する高線量率組織内照射 (2)膣がん・子宮がんに対する高線量率組織内照射 (3)骨盤腫瘍に対する高線量率組織内照射 (4)軟部腫瘍に対する術後高線量率組織内照射 (5)頭頸部がんに対する高線量率組織内照射
小児腫瘍科	(1)再発小児固形腫瘍(神経芽腫、横紋筋肉腫、ユーイング肉腫、腎芽腫、肝芽腫など)に対する科学的根拠(エビデンス)に基づく抗がん剤併用療法 ・再発小児固形腫瘍に対する塩酸ノギテカン・イホスファミド併用化学療法 ・その他、実地臨床設定での抗がん剤併用療法

▲このページの先頭へ

5. 国立がん研究センターの治療成績(特定機能病院では初めての公開)

1) 中央病院の治療成績

2) 東病院の治療成績

▲このページの先頭へ

| [トップ](#) | [掲載内容一覧](#) | [お問い合わせ](#) |

更新日: 2010-06-09